

Ⅱ 英語科の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ・「大問・領域」には1～10までの大問ごとに、その「言語活動の内容」と「能力」を示した。「設問のねらい」には、小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」の4観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の分析と指導のポイント」について

- ・調査結果の分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示し、指導のポイントについては、今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点を示した。また、文末の「〇ページ参照」は、次の3「領域別調査結果の考察と指導のポイント」の内容との関連箇所を示している。

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

- ・大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（概要・指導のポイント）について右ページに記した。
- ・分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。
(※誤答例は、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いもの)

II 問題と結果・分析

1 設問のねらいと評価

大問・領域	小問	設問のねらい	観点別評価			
			関意態	表現	理解	言・文
①リスニング（聞き取りの能力）	(1)	話しかけに対して、適切な応答を選ぶことができる。			○	
	(2)					
	(3)					
②リスニング（聞き取りの能力）	(1)	会話を聞いて、絵の内容に合っている英文を選ぶことができる。			○	
	(2)					
	(3)					
	(4)					
③リスニング（聞き取りの能力）	(1)	会話を聞いて、概要や要点を理解することができる。			○	
	(2)					
	(3)					
④対話文の読解（読解の能力）	(1)	対話を読んで、情報をつかみ、内容に合う絵を選ぶことができる。			○	
	(2)					
	(3)					
	(4)					
⑤手紙文の読解（読解の能力）	(1)	Eメールを読んで、メールの目的や内容について、概要や要点を理解することができる。			○	
	(2)					
⑥対話に合う文の選択（対話の流れや場面の理解）	(1)	対話を読んで、場面を理解し、対話の流れに合う文を選ぶことができる。			○	○
	(2)					
⑦対話に合う慣用表現の選択（慣用表現等の知識）	(3)	対話を読んで、場面を理解し、場面に応じた慣用表現を選ぶことができる。			○	○
	(4)					
⑧自己紹介をする文章の作文（表現の能力）		自己紹介の内容について、書いて表現することができる。		○		
⑨絵の内容に合う文の作文（表現の能力）		絵について、内容に合った文を書いて表現することができる。		○		
⑩語句の整序問題（文法・語順についての理解）	(1)	与えられた語句を並べ替えて、正しく書くことができる。			○	
	(2)					
	(3)					

2 調査結果の分析と指導のポイント

(1) 調査結果の分析

全 体	<p>◇全体の正答率は79.6%であった。設定通過率67%を考えると、十分満足できる状況にある。</p> <p>◇「小・中一貫英会話」で英語を「聞くこと・話すこと」に触れてきている。そのため、英語を聞き取ることに慣れ、聞き取りの基本的な力は身に付いていると言える。</p> <p>◆英文読解の際、情報を整理しながら内容を正確につかむこと等に課題がある。</p> <p>◆書いて表現する際に、文法的な知識を正確に身に付けることに課題がある。</p>
領 域 別	<p>◇聞いた英文を絵や図などを通して視覚的に理解し、文字を介さず英文の内容を理解する力が身に付いている。</p> <p>◇選択肢の情報を理解して読み取る力やまとまった文章の大意をつかむ力は身に付いている。</p> <p>◆代名詞の具体的な内容や文章の細かい情報を整理しながら読むことに課題が見られる。また、設問をよく読まずに答えを導いている生徒も見受けられる。これは、まとまった英文を読む体験が少ないことが原因と考えられる。</p> <p>◇対話文を読んで、場面を正しく理解する力は身に付いていると言える。</p> <p>◆文と文のつながりや”Let's ~”に対する応答に戸惑った様子がうかがえる。</p> <p>◇自己紹介を英語で表現させることを多くの授業で扱っているため、生徒は書きやすく、正答率が高くなったと思われる。</p> <p>◆現在進行形の形で、be動詞の欠如、”ing”的付け忘れという誤答が目立っている。</p> <p>◇《疑問詞+名詞》《A of B》の語順についての理解が不十分である。特に、後置修飾は苦手とする生徒が多いようである。</p>
継 続 し て 見 ら れ る 課 題	<p>◆まとまりのある英文の内容について、情報を整理し、細部まで読み取る力が不足している。 (報告書 p. 9 指導のポイント「1 代名詞の理解を確実にする。」「2 長文に触れる機会をもち、情報を整理する力を付けさせる。」参照)</p> <p>◆ofを用いた後置修飾の語順について理解度が低い。 (報告書 p. 14 指導のポイント「2 of の用法の定着を目指した指導を繰り返す(後置修飾の理解と運用)」参照)</p> <p>◆現在進行形の英文を書く上で必要な知識(形、be動詞と一般動詞の違い等)に、あいまいな部分が残っている。</p> <p>◆自己紹介の英文は、授業でも比較的多く扱われているため正答率が高い。しかし、単語を正しいつづりで書くことに課題が見られる。 (報告書 p. 13 1「書く活動を多く取り入れる。」 2「書くことへの意欲を高める工夫をする。」参照)</p>

(2) 指導のポイント

<聞き取りの能力>

○日常会話の英問英答に慣れ親しませる工夫をする。

○英語特有の表現を繰り返し指導する。

<読解の能力>

○代名詞の理解を確実にする。

○長文に触れる機会を持ち、情報を整理する力を付けさせる。

<対話の流れや場面の理解・慣用表現等の知識>

○Q and Aや慣用表現のインプット活動、アウトプット活動を行う。

<表現の能力>

○書く活動を多く取り入れる。

○書くことへの意欲を高める工夫をする。

<文法・語順についての理解>

○疑問詞を含む文を繰り返し指導する。

○ofの用法の定着を目指した指導を繰り返す。(後置修飾の理解と運用)

3 領域別調査結果の考察と指導のポイント

領域別正答率(%)

(1)「聞き取りの能力」

「聞き取りの能力」H22:81.3 H21:77.0 H20:81 H19:81

大問・領域	小問	問題	正答	主な誤答例	正答校率の 正答の率	正市 無解市 過定通
① リスニング（聞き取りの能力）	(1)	Do you play tennis every day? ア Yes, it is. イ Yes. I like tennis very much. ウ No, I'm not. エ No, I can't.	イ	ア、ウ		64.3 0.4
	(2)	Where do you live? ア I'm 14. イ I'm happy. ウ It's Japan. エ I live in Saitama.	エ	ウ	85.4	0.6 60
	(3)	Is this your notebook? ア Yes, it's a notebook. イ Yes, it's mine. ウ No, it's not me. エ No, it's a textbook.	イ	ア	69.5	0.6
② リスニング（聞き取りの能力）	(1)	Where is my bag? ア Oh, it's on the desk イ Oh, it's under the desk. ウ Oh, it's by the desk. エ Oh, it's in the desk.	イ	ア	80.3	0.6
	(2)	What time is it now? ア It's nine forty. イ It's nine fourteen. ウ It's nine-o-four. エ It's eight forty.	ア	イ	81.6	0.6 80
	(3)	That is my friend Ken. ア He can speak English well. イ He can swim well. ウ He can sing well. エ He can cook well.	イ	ウ	80.7	0.6
	(4)	Emi is in the park. ア She is having lunch. イ She is listening to music. ウ She is talking. エ She is reading a book.	エ		93.7	0.6
③ リスニング（聞き取りの能力）	(1)	どのような場面での会話ですか。 A: Do you come to school by bus? B: No, I walk to school. ア バスの行き先を確認する場面での会話。 イ 通学方法をたずねる場面での会話。 ウ 散歩に誘う場面での会話。 エ 旅行に出かける場面での会話。	イ		90.9	0.6
	(2)	何をしているときの会話ですか。 A: Mr. Brown, this is my friend Kate. She is from Canada. Kate, this is Mr. Brown. He is our English teacher. B: Hello, Kate. Nice to meet you. ア 買い物をしているときの会話。 イ 教室に案内しているときの会話。 ウ 店で注文しているときの会話。 エ 人を紹介しているときの会話。	エ		93.4	0.4 85
	(3)	どのような場面での会話ですか。 A: Excuse me. Can you read this for me? B: Sorry, I can't. I'm busy. ア 電話での会話。 イ 道案内での会話。 ウ 頼みごとについての会話。 エ 料理についての会話。	ウ	イ	72.8	0.6

1 2 3 聞き取りの能力

結果の概要

放送問題全体の正答率は、81.3%であった。質問の意味を聞き取る力はかなり身に付いている。

- 1 英語の質問に対して、正しい応答の文を聞いて答えを選ぶ問題である。正答率は73.1%で、他のリスニングの問題と比較すると低い結果となった。相手の問い合わせを聞き、答えの文に加え、YesやNoに続く英文も聞き取ることが求められるため、正答率が若干下がったものと考えられる。

〔正答率の低かった問題〕 ※注：()に示した%は、誤答分析をした全解答に占める割合を表す。

- (1) Do you play tennis every day? 正答率 64.3%

【誤答】 No, I'm not. (15.7%) Yes, it is. (13.8%) No, I can't. (6.0%)

質問の意図は聞きとれているが、Do you ~? の質問に対する答えの選択肢の中に、Yes, I do./ No, I don't. がなかったため、Yes, I like it very much. を選択できなかった生徒もいたようである。

- (3) Is this your notebook? 正答率 69.5%

【誤答】 Yes, it's a notebook. (16.1%) No, it's not me. (5.5%) No, it's a textbook. (3.2%)

your notebook に対して、mine に置き換えて答えることを想定したが、mine を用いた選択肢を見出せずに、a notebook を選んだ生徒もいたようである。

- 2 短い対話文もしくは英文を聞いて、その場面を表す絵を選ぶ問題で、正答率は84.1%であった。聞いた英文を視覚的に理解し、文字を介さずに、英文の内容を理解する力が多くの生徒に身に付いている。疑問詞 Where に対して適切な前置詞を用いて物の場所を説明する問題については、前置詞の意味を理解して解答することができていた。(2)(3) については、数字(fourteen と forty)や動詞の音を聞き取り、音と意味のつながりを正しく理解することに課題が見られる。

- 3 短い英語の対話を聞き、その内容に合うものを日本語の選択肢の中から選ぶ問題で、正答率は85.7%であった。場面や話題の中心が何であるかを理解する力が身に付いていると思われる。(3)では場面や状況により can の使われ方が変化することにも気付かせたい。

〔主な誤答例〕 ※注：()に示した%は、誤答分析をした全解答に占める割合を表す。

- (1) どのような場面での会話ですか。「通学方法をたずねる場面での会話」正答率 90.9%

bus という単語が印象に残ってしまったためか、バスの行き先が話題の中心であるとの誤答が見られた。

- (3) どのような場面での会話ですか。「頼みごとについての会話」正答率 72.8%

【誤答】「道案内での会話」(19.4%)「電話での会話」(2.8%)

短い対話から can が「依頼」を表す内容であることを判断できなかった生徒もいたようである。

また、“Can you read this for me?” の this が抽象的で曖昧だったため、具体的な場面のイメージがつかみづらかったようである。

指導のポイント

- 1 日常会話の英問英答に慣れ親しませる工夫をする。

日常会話の英問英答に慣れ親しませ、会話の定型をしっかりと身に付けさせる指導の工夫が必要である。いろいろな応答のバリエーションを増やすような活動を意図的に取り入れて、英問英答に慣れさせる。具体的には“Yes, I do.”などの決められた3語での応答だけでなく、1文を加えさせて行う活動や自分が使いたい表現を使って対話を発展させるスキット活動などが考えられる。

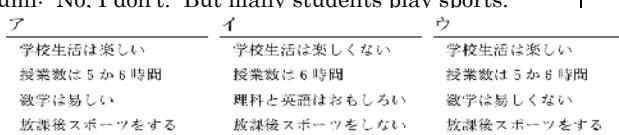
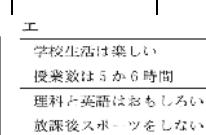
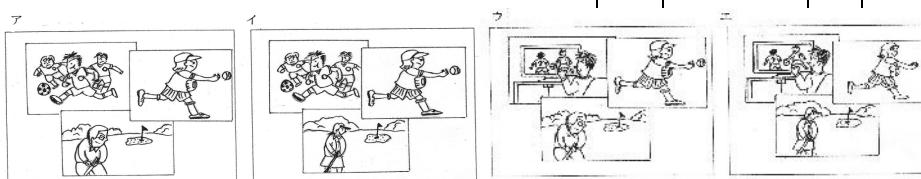
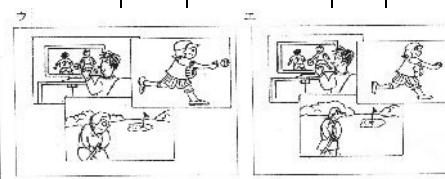
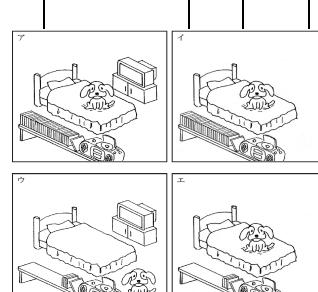
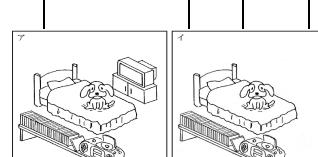
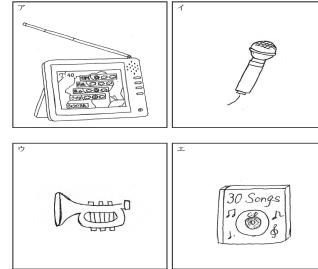
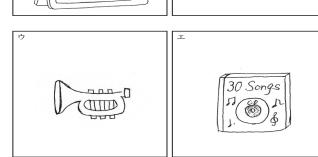
- 2 特有の表現を繰り返し指導する。

“Can you ~?” を使った「依頼」などの表現について、場面を設定した会話活動を継続して行うなど、繰り返し使う体験を通して身に付けさせたい。

(2)「読解の能力」

領域別正答率 (%)

「対話文の読解」 H22:84.8 H21:78.5 H20:78 H19:81

大問・領域	小問	問題	正答	主な誤答例	正自 答校 率の 率	正市 答の 率	無解 市答 の率	過定 通
④ 対話文 の読解（読 解の能力）	(1)	会話の内容から、久美 (Kumi) のことについてまとめられたものを選ぶ。 ALT: Do you enjoy your school life? Kumi: Yes. I enjoy it every day. ALT: How many classes do you have each day? Kumi: Five or six. ALT: What subject do you like? Kumi: I like science and English. They both are interesting. But I don't like math. It's not easy. ALT: Do you play sports after school? Kumi: No, I don't. But many students play sports.	エ	ア、ウ		86.8	0.7	
								
	(2)	会話の内容から、二人で見ている写真を選ぶ。 Yuki: Look at these pictures. Mike: Oh, this is a nice picture. Who is he? Yuki: He's my brother. He likes soccer very much, but he doesn't play soccer. He often watches soccer games on TV. Mike: Who is playing softball? Yuki: That's my sister. She is a good player. Mike: Is that your father? Yuki: Yes. He can play golf very well. Mike: Your family members like sports. How about your mother? Yuki: She doesn't play sports.	ウ	ア、エ		82.6	0.8	
								
	(3)	正夫 (Masao) の部屋だと思われる絵を選ぶ。 John : Oh, you have a dog, Masao. Masao: Yes. It's my dog Pochi. He is usually on my bed. John : It's so cute. Masao: Thanks. John : You have many CDs. Masao: Yes, I do. I love music. John : Are these CDs all yours? Masao: Yes. I listen to music every day. John : I see. Your room is nice but you don't have a TV. Masao: I don't watch TV in my room. I watch it in the living room.	イ	ア		81.4	0.8	
								
	(4)	誠 (Makoto) のプレゼントと思われるものを選ぶ。 Father : This is a present for you, Makoto. Makoto: Oh, thank you very much. Father : You like music very much, right? Makoto: Yes. I often listen to music. Father : It has many good songs. Makoto: Can I open it?	エ	イ		88.3	0.7	
								

4 5 読解の能力

結果の概要

読解の能力を問う問題全体としての正答率は 83.8% であった。[4]全体の正答率は 84.8%、[5]全体の正答率は 81.5% と 2 つの問題に大きな差は見られなかった。無解答率も 0.7~0.9% と低く、選択肢の情報と照らし合わせながらポイントを読み取っている生徒が多いと言える。しかし、一方では代名詞の理解や情報を整理する力などに課題も見られた。

[4] 対話文を読み、その内容に合う表や絵を選ぶ問題である。

(2) の正答率は 82.6% であった。サッカーが好きだというマイクの兄(弟)について “He doesn't play soccer.” や “He often watches soccer games.” という情報が正確に読み取れていない誤答や father / mother、he / she などの簡単ではあるがキーワードとなる語が正確に読み取れていないことによる誤答が目立った。

(3) は部屋の様子を読み取る問題だが、正答率は 81.4% と [4] の中で最も低かった。誤答は圧倒的にアが多く、“…you don't have a TV.” や “I don't watch TV in my room.” の部分が読み取れていないことが分かる。「正夫の部屋について」という設問をよく読んでいないことや、読み取った情報をメモしながら読み進めていないことが間違いの原因と思われる。また、最後の “I watch it in the living room.” という新情報によって部屋にテレビがある絵を選んでしまったとも考えられ、否定文よりも肯定文の方が頭に残りやすい傾向もあるようだ。

[5] まとめた英文を読みそのままの内容と合うものを日本語の選択肢の中から選ぶ問題である。

(1) の正答率は 81.0% で誤答はウとエが多かった。family や festival、fireworks といった単語から安易に判断してしまったようである。1 文 1 文の理解に加え、内容全体の大きな流れをつかめるようにする必要がある。

指導のポイント

1 代名詞の理解を確実にする。

今回、he や she、it といった代名詞の理解が不十分なことによる誤答も目立った。英文を読む際、代名詞の理解は欠かせない。教科書本文の代名詞に印を付けさせ、1 つ 1 つ意味を確認していくのも有効な指導法である。また、代名詞の指す内容は 1 つ前の文に書かれている場合が多いことや、名詞が単数なのか複数なのかが大きなヒントになること等の知識を身に付けさせることも大切である。

2 長文に触れる機会をもち、情報を整理する力を付けさせる。

問題 [4]、[5] を通じて感じられたのは「情報を整理する力」の不足である。1 文 1 文の意味は理解できても、読み取った情報が整理されていなければ話の流れを読み違えてしまうことが多い。次の 4 点を意識させながら、まとめた英文を読む機会をできるだけ多く作ることが大切である。

- | | |
|----------------------|-----------|
| (1) 人物関係等はどうなっているのか。 | (話の背景の理解) |
| (2) 何について書かれているのか。 | (テーマの理解) |
| (3) 話の展開はどうなっているのか。 | (情報の整理) |
| (4) 結末はどうなったのか。 | (主旨の理解) |

読み取った情報を整理することで「全体として筆者は何を伝えたいのか」、「最終的にどんな話の流れになったのか」等を確認しながら進めることができる。1 文 1 文の意味の積み重ねが 1 つの主旨(論旨)を作ることを理解させ、細部だけではなく、英文の大意にも注目することの大切さを教える必要がある。また、設題の把握や接続詞などに注意を払うことも併せて指導し、理解を深めさせたい。

(3)「対話の流れや場面の理解」

「慣用表現等の知識」

領域別正答率(%)

「手紙文の読解」	H22:81.5	H21:60.7	H20:47	H19:67
「対話の流れや場面の理解」	H22:84.3	H21:77.7	H20:59	H19:60
「慣用表現等の知識」	H22:83.4	H21:72.7	H20:89	H19:82

大問・領域	小問	問 題	正答	主な誤答例	正自 答校 率の 率	正 市 答 率	無 解 答 率の 率	過 定 通
⑤ 手紙文の読解（読解の能力）	(1)	Dear Tom, How are you doing? I'm in Hokkaido now. My sister lives in Sapporo. So I come here with my family every summer. I went to a festival in Sapporo yesterday. I saw beautiful fireworks at night. I had a good time. Do you have any summer festivals in your country? Please tell me about your summer vacation. See you! Emi						60
		E メール文の目的は何か。 ア トムに自分の夏休みの様子を伝えるため イ トムに自分の家族を紹介するため ウ トムに日本の文化を紹介するため エ トムを花火大会に誘うため	ア	ウ、エ		81.0	0.9	
		本文の内容とあうものを一つ選ぶ。 ア 絵美は北海道に住んでいる イ トムと絵美は花火大会に行く予定である ウ 絵美は昨日、札幌のお祭りに行った エ トムの国でも夏祭りがある	ウ	ア		82.0	0.9	
⑥ 対話に合う文の選択（対話の流れや場面の理解）	(1)	対話文中にあてはまる文を選ぶ。 Taro: Do you like Japanese food? ALT : Yes. I often go to Japanese restaurants. Taro: What's your favorite Japanese food? ALT : I like natto. Taro: () I don't like it. ア Pardon? イ Here you are. ウ All right. エ Really?	エ	ウ		82.6	1.1	75
	(2)	対話文中にあてはまる文を選ぶ。 Emi : What did you do last Sunday? Kumi: I went to Tokyo Disneyland with my friends. () Emi : I studied at home last Sunday. Kumi: Really? ア Right. イ How about you? ウ Sure. エ OK.	イ			86.0	1.2	
⑦ 対話に合う慣用表現等の選択（慣用表現等の知識）	(1)	対話文中に合う慣用表現等を選ぶ。 Teacher: () Student: Yes? Teacher: Is this your notebook? Student: No, it's not. ア How about you? イ Pardon? ウ I'm sorry. エ Excuse me.	エ			88.0	1.1	70
	(2)	対話文中に合う慣用表現等を選ぶ。 Bill : Are you free on Sunday? Akira: Yes, I am. Bill : Let's go to the park! Akira: () ア Pardon? イ All right. ウ Thank you. エ Here you are.	イ	ウ		78.9	1.8	

6 対話の流れや場面の理解

7 慣用表現の選択

結果の概要

- 6 対話文を読み、その流れや場面を理解して適切な文を選ぶ問題である。正答率は(1)が82.6%、(2)が86.0%であった。(1)の誤答はウの“All right.”に集中しているが、これは次の“I don't like it.”とのつながりが読み取れていないためと思われる。
- 7 対話文を読み、その場面を把握して適切な慣用表現を選ぶ問題である。正答率は(1)が88.0%、(2)が78.9%であった。(2)ではウの“Thank you.”を選ぶ間違いが多かったことから、“Let's ~.”に対する応答に戸惑った様子がうかがえる。

指導のポイント

Q and A や慣用表現のインプット活動、アウトプット活動を行う。

対話の流れに沿った適切な質問や応答を選択するためには、英語による簡単な Q and A や慣用表現等が身に付いていなければならない。そのために効果的なのはインプット活動である。しかし、それだけでは場面に応じた受け答えができるまでには至らない。そこで、ペアでの会話練習等で必ずあいづちを打たせたり、教科書の対話文に自分で考えて1文を付け加えさせたりするなど、アウトプット活動も同時に行っていくことが大切である。

(4)「表現の能力」
「文法、語順についての理解」

領域別正答率 (%)

「表現の能力」	H22:51.5 H21:42.3 H20:45 H19:56
「文法・語順についての理解」	H22:63.0 H21:46.9 H20:74 H19:60

大問・領域	小問	問題	主な誤答例	正自答校率の 率	正答市率の 率	無解市率の 率	設定通
⑧ 自己紹介をする文章の作文（表現の能力）		英語で自己紹介をする。 My name isに続けて4文以上書く。 <正答例> My name is Hiroko. I'm from Tokyo. I can play basketball well. I am a member of the basketball team.	<ul style="list-style-type: none"> I have brother. (aなし) I like dog. I go to school by walk. 	74.0	5.3	60	
⑨ 絵の内容に合う文の作文（表現の能力）		絵を見てとも子 (Tomoko) が今していると思われることを4語以上で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> Tomoko is listening to music now. Tomoko listens to music. 	28.9	11.5	50	
⑩ 語句の整序問題（文法・語順についての理解）	(1)	与えられた語句を並べ替え、正しい文を書く。 A: (you / how / CDs / do / many / have)? B: I have three. <正答> (How many CDs do you have)?	<ul style="list-style-type: none"> How many do you have CDs How do you have many CDs? 	70.2	3.5		50
	(2)	A: (to / City Hospital / bus / goes / which)? B: Take Bus No.3. <正答> (Which bus goes to City Hospital)?	<ul style="list-style-type: none"> Which goes to bus City Hospital? Which goes to City Hospital bus? 	62.4	5.8		
	(3)	A: What's this? B: It's (a picture / our Sports Day / of). <正答> It's (a picture of our Sports Day).	<ul style="list-style-type: none"> our Sports Day of a picture a picture our sports day of a picture 	56.6	5.3		

8 9 表現の能力

結果の概要

- 8 テーマについて4文以上で記述する問題である。

昨年度の友人紹介ではなく自己紹介としたため、正答率は74.0%、無解答率は5.3%であった。

ここ数年のデータを見てみると、友人紹介と自己紹介では正答率に20%以上の開きがある。これは三单現の用法が苦手な生徒が多いことを表している。また、今回は出題方法を変え、like, play, listen, goなど、自己紹介でよく使われる10種類の動詞を選択肢として与え、1回限りの使用を認めた。これは同じ動詞ばかり使うのを防ぐためと、単語力の不足によって正答できないのか、文の構造が理解できていないために正答できないのかを判断するためのものであった。無解答率が減少していることから、今まで解答する意思はあるものの単語が分からずに書けなかった生徒が今回参加できたことが分かる。しかし、同じく自己紹介をテーマとし、単語リストがなかった平成19年度の正答率も70%以上あったことを考えると、単語が分からぬという理由ではなく、文法上の事項でつまずいている場合が多いと言えるのではないだろうか。誤答を見ても、冠詞がない、複数形になっていない、動詞を2つつなげて使用してしまうなどの文法上の間違が多いことが分かる。

[主な誤答例]

冠詞ぬけ	I have pen. I have ball. I play piano. など
複数形	I like dog. I like game. I love friend. I read book. など
動詞のミス	I like study English. I play dance. I go to school by walk. I can soccer. など

- 9 絵で示された内容を、現在進行形を使って説明する問題である。

絵の状況から書くことを想定した英文が、①“Tomoko is listening to music.” ②“Tomoko is writing a letter.”の2つであるが、多くの生徒が①を選んで解答していた。動詞にingを付け忘れる、be動詞が書かれていらない、といった誤答が目立っており、現在進行形の文の理解が不十分であり、定着していないことも明確である。無解答率は11.5%であった。

[主な誤答例]

Tomoko is listen to music (now). Tomoko(She) listen to music. Tomoko(She) listening to music.

指導のポイント

1 書く活動を多く取り入れる。

授業中に書く活動を多く取り入れ、生徒にたくさんの英文を書かせるようにしたい。また生徒が書いた英文については、教師ができるだけチェックして、より適切な表現力を身に付けさせるとともに、基本文を繰り返し書かせることで基本的な文法事項の定着を図り、理解につなげたい。

2 書くことへの意欲を高める工夫をする。

自己紹介やShow and Tell、英文日記など与えられたテーマに沿って書いた英文を、多くの機会で発表させて、達成感や成就感を体験させたい。よい発表や作品等は掲示する、プリント等にまとめて配付するなどの工夫をして、生徒間で共有させることで、書く活動への意欲を高めることが可能になると思われる。

10 文法・語法についての理解

結果の概要

10 対話の流れから考える英作文問題で、和文は与えられていない。他の観点と比較すると、正答率は低く、(1)70.2% (2)62.4% (3)56.6%となっている。並べ替える語句が提示されていることもあり、英文を構成しようとする努力はうかがえ、無解答率は9と比較すると低い。(1)(2)は《疑問詞+名詞》のパターンで、How many や Which が文頭にきて疑問文を構成することについては概ね理解されているが、誤答分析からその後に続く語の構成に迷った生徒が見受けられた。(3)については後置修飾の前置詞 of の正しい理解と用法を確認するために、(a picture / our Sports Day / of)という3つの語句単位での出題となった。しかし、正答率は昨年より約4ポイント低い結果となっており、《A of B》を日本語通りの語順でとってしまう誤答が多く見られるなど、of の理解度は高くなかった。of の意味や働き、語順の理解が十分ではないと言える。

[主な誤答例] ※注:()に示した%は、誤答分析をした全解答に占める割合を表す。

- (1) How do you have many CDs? (6.0%) How many do you have CDs? (3.7%)
- (2) Which goes to bus City Hospital? (6.9%) Which goes bus to City Hospital? (2.8%)
Which goes to City Hospital bus? (2.3%)
- (3) our Sports Day of a picture (8.8%) our sports day of a picture (5.5%)
of a picture our Sports Day (2.8%)

指導のポイント

1 疑問詞を含む疑問文を繰り返し指導する。

疑問詞を文頭に置いて疑問文を作るという理解はおおむねされているようである。しかし、疑問詞の後に名詞が続くパターンについては、コミュニケーション活動を反復して行い、文型や応答の仕方について慣れさせていく必要がある。また、生徒自身がコミュニケーション活動で用いた文を正確に書かせて確認する指導を行うなどの工夫も考えられる。

2 of の用法の定着を目指した指導を繰り返す。(後置修飾の理解と運用)

後置修飾の働きをもつ of については、定着するまで繰り返し指導したい。今年度は《A of B》が「B の A」という意味と語順がどの程度理解されているかを見るため、並べ替える語句を少なくしたにも関わらず、理解不足が見られる。of をはじめとする後置修飾についての文法的理解は、生徒が後に学習する分詞の形容詞的用法や関係代名詞の理解ともつながっていくものである。《A of B》のような後置修飾のパターンについて、特別にまとめて授業で取り上げるなどの工夫が必要になってくる。